

社会福祉法人 大阪愛心会

平成29年度

事業報告

■社会福祉法人 大阪愛心会（法人本部）

- (1) 特別養護老人ホーム事業
- (2) 短期入所生活介護事業
- (3) 通所介護事業
- (4) 地域包括支援センター

社会福祉法人 大阪愛心会
平成 29 年度 事業報告

【法人本部】

社会福祉法の改正があり、経営組織のガバナンス強化が行われ、評議委員会の議決機関化や役員とその法人の職員との兼務不可などが制度化された。当施設も定款の変更や一部役員の入替えを行った。また、情報開示による透明性の確保が求められ、定款・役員名簿・貸借対照表・資金収支計算書・現況報告書等の公表をホームページで実施した。

新規には、4月から八尾市の委託を受けて八尾市地域包括支援センター久宝寺愛の郷を立ち上げた。また、ダイエタリーケアへの給食の委託がなくなり、直接運営に切り替えた。

地域との関係は良好で、8月の夏祭りは50人以上の地域の方々にボランティアとしてお手伝い頂き、入居者やその家族、地域住民合わせて、800人以上の参加があった。9月の燈路祭まつりは、会場の一つとして当施設の敷地をご利用頂いた。久宝寺・美園地区福祉委員会、久宝寺寺内町まちづくり推進協議会や八尾市の人権文化ふれあい部久宝寺出張所とはコミュニケーションをとるよう心がけてきた。

収支については、全事業の介護報酬は、前年度比較+4.8%（目標+2%）であった。地域包括の運営委託の委託料を合わせると+10.8%増加した。利益に関しては、人件費（+30.3%）の影響で計画値に対して34.8%の未達となった。事業別に見ると、特養+3.9%、ショート+0.8%、デイ+10.8%と全ての事業で前年比プラスとなった。特養の退所から入所までの日数を3日としたが、1.5日と短縮、要介護度も4.2となった。ショートも9月以降の稼働率は平均で80%を超えている。デイは、1日の利用者数が4月21.3人であったが、3月は26.8人となった。全ての事業で年度目標は達成できた。重点目標であった看取りに関しては、13名の実施が出来た。現在、入所者の8割が看取り希望となっている。加算に関しては、口腔衛生管理体制加算を12月から取得した。

1、運営事業

平成 26 年 9 月 1 日	特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷	入所定員	50 名
同	同	短期入所定員	10 名
同	デイサービス 久宝寺愛の郷	利用定員	32 名
平成 29 年 4 月 1 日	地域包括支援センター業務委託（八尾市）		

2、理事会

第 1 回 平成 29 年 5 月 24 日

- (1) 監事監査報告
- (2) 平成 28 年度事業計画について
- (3) 平成 28 年度決算について
- (4) 社会福祉充実計画案について
- (5) 新役員案について
- (6) 役員報酬基準について
- (7) 施設長の辞任について

- (8) 新施設長の就任について
- (9) 評議委員会の議案について

第2回 平成29年6月7日

- (1) 理事長選任について
- (2) 業務執行理事の選任について

第3回 平成30年3月7日

- (1) 平成29年度予算進捗状況
- (2) 平成30年度事業計画について
- (3) 平成30年度予算について
- (4) 施設長交代について

3、評議員会

第1回 平成29年6月7日

- (1) 監事監査報告
- (2) 平成28年度事業計画について
- (3) 平成28年度決算について
- (4) 社会福祉充実計画案について
- (5) 新役員案について
- (6) 役員報酬基準について
- (7) 施設長の辞任について
- (8) 新施設長の就任について

第2回 平成30年3月22日

- (1) 平成29年度予算進捗状況
- (2) 平成30年度事業計画について
- (3) 平成30年度予算について
- (4) 施設長交代と理事の兼務について
- (5) 相談・苦情受付の第三者委員選任について

【特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷】

開設3年が経過し、ユニットケアのさらなる向上を目指す為、外部研修へ参加したり、職員間で内部研修を開催した。1ユニット10名の生活が、より家庭的な雰囲気の中で生活が出来るように努力している。日常業務に24時間シートを導入、職員間の情報共有を図り、入居者様本来の生活リズム・パターンに活かせるよう今後も取り組んでいく。個人の希望、家族様の希望に少しでも寄り添えるサービスの提供を心がけ、安心して過ごして頂けるよう、信頼関係の構築に努めた。

1、入所定員 50名

2、職員体制

	常勤	非常勤	合計
施設長	1	0	1
医師（嘱託医）	0	2	2
看護責任者	1	0	1
生活相談員	1	0	1
介護支援専門員	1	0	1
看護師	0	3	3
フロアリーダー	2（UL 兼務）	0	2
ユニットリーダー	5	0	5
介護職員	13	12	25
管理栄養士	1	0	1
事務職員			
	23	17	40

3、入居者の状況

(1) 入退居状況

平成29年度中の入退居状況は次の通り。

〔月毎の入居数、退居数〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居数	0	1	5	3	0	1	3	0	1	3	1	1	19
退居数	0	1	5	3	1	1	2	0	1	4	0	1	19
末日の人数	50	50	50	50	49	49	50	50	50	49	50	50	

〔入居前の状況〕

合計数	病院	老健	サ高住	在宅	その他施設
19	3	7	1	8	0

〔退居後の状況〕

合計数	長期入院	他施設への 転居	死亡 (看取り)	死亡 (入院中)	死亡 (施設)	在宅
19	1	1	13	3	1	0

(2) 構成

平成 28 年 2 月時点での入居者構成は次の通り。

	男性	女性	全体
最高年齢	103	98	103
平均年齢	83	87	86
平均要介護度	4.2	4.3	4.2

(3) 稼働率 (%)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
100	99.9	99.4	99.7	99.9	100	99.8	100	99.9	99.5	100	99.9

【介護支援専門員】

ケアプラン計画書作成時、多職種共同でその人がその人らしく暮らすことができる支援を目標とした。サービス内容についても各個人に必要な事柄を盛り込み、一人一人にあった計画書作成を心がけた。また、家族との連携を密にし、日々の状態の変化を共有することに努め、担当者会議ではより一層日頃のご様子について報告できるようにした。

【生活相談員】

前年度より引き続き、退居者が出た場合に空室期間が長くないよう、迅速に次の入居者の受入ができるよう体制を整備した。結果、空床期間を 2 日間以内に短縮できた。また、事前に面談し、施設での暮らしにすんなり馴染んでいただけるよう、情報収集とその共有を通して職員への周知に力を入れ、各部署が連携出来るよう努めた。定期的開催している入居選考の実施については、1 日でも早くスムーズに入居出来る様、各関係機関との連携を図った。前年度同様、日常生活継続支援加算算定維持の為、重介護者の受け入れを積極的に行った。

日々の暮らしの中で入居者との関わりの時間を大切にし、不満や戸惑い等が無い心を配り、気づいたことについては、ユニットリーダーを中心としたスタッフと共に改善に取り組んだ。

【介護】

開設より 3 年が経過し、前年同様入居者の重介護化への対応を図った。目の前の介護、業務に追われる中においても、画一的なケアにならないように、その人らしさを大切にした寄り添う介護に取り組み、より身近な関わりが持てる様になっている。行事は毎月開催し、外出行事では入居者全員が参加出来るよう努力した。

一方で施設での看取りを希望される入居者が増え、その人の最期を他職種と連携しながらお見送りをする大事な役割に、精神的に追いつかない状況にも対面した。しかし、職員間で振り返りをしながら、入居者の方々へ居場所となるサービスを提供し続けたい想いで、入居者やご家族との関わりの強化に努め、施設内外の研修に参加し、職員の技術・知識の向上に努めた。

【医務】

1. 健康管理

H29年4月～H30年3月

入院：27名 救急要請：2件 入院中病院にて死亡：2名

平均入院日数：30.5日

入院病名：尿路感染症・誤嚥性肺炎・骨折・胆石・蜂窩織炎・逆良性食道炎・低栄養

前年度に比較して受診件数は約30件の増加がみられ、特に内科・皮膚科・整形外科が増加となった。入院数は減少し、入院期間（平均日数）も短縮、救急搬送依頼も2件に減少した。

【受件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	3	2	2	3	6	1	6	8	5	3	5	2	46
皮膚科	0	0	1	0	1	0	3	6	3	5	3	2	24
外科	0	0	1	0	1	3	0	0	1	0	0	1	7
整形外科	3	1	2	1	3	2	0	3	1	2	3	3	24
泌尿器科	3	0	0	1	1	2	2	0	0	1	0	0	10
眼科	1	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0	1	8
歯科	0	2	1	1	0	1	1	6	1	0	0	0	13
神経内科	0	0	0	1	1	0	0	0	1	2	0	2	7
心臓血管外科	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
脳神経外科	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
形成外科	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
耳鼻咽喉科	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	10	7	9	8	14	9	15	25	14	15	11	11	146

【入院数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実人数	2	6	2	2	2	3	2	2	1	2	3	3	27	2.3
延べ日数	11	78	45	12	41	42	33	40	33	13	18	30	366	30.5

【急搬送件数】 ※全て八尾徳洲会病院へ搬送

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急搬送	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2

2. 施設退去者状況

施設内看取り介護：13名 転院（療養型病院）2名 入院中の死亡退院3名
その他 1名（検死）

医療連携施設：八尾徳洲会総合病院・貴島病院・清心会メンタルクリニック・ハローデンタルクリニック・健志会歯科クリニック

前年度に比較して看取り介護による退去者が増加、病院での最後をむかえる方が減少した。しかし、経管栄養（経鼻）・吸引による療養型病院への転院の選択をされる方もあった。施設内での在宅酸素導入や抗生剤の点滴など、最小限の医療提供が出来ることで施設内最後（看取り介護）を望まれる傾向が強くなってきている。

3. 感染症対策

○インフルエンザ予防接種：入居者・職員 11月に施行

○ノロ対策にてH29年10月～H30年3月 環境クロス ルビスタ導入
結果

- ・インフルエンザ罹患・・・3名。（職員） 入居者 0名
- ・ノロウイルス・・・0名。
- ・疥癬・・・持ち込み1名（入居後に受診確定）

【栄養】

行事食や旬の食材を取り入れた季節感のある食事に加え、日本各地の郷土料理を取り入れた献立にも挑戦している。また、他部署との連携により栄養マネジメントを行い、ご利用者それぞれが安心して食事を楽しめる環境作りに努めた。食事は今年度より委託から直営へ移行し、施設の方針や入居者の声をより反映しやすい体制となった。ソフト食も導入し、提供食の更なる改善を目指して協力し合う関係作りに務めている。

1. 職員体制

職種	常勤	非常勤	合計
管理栄養士	1	0	1
栄養士	1	0	1
調理師	2	4	6
合計	4	4	8

2. 行事食・季節料理

4月：春の献立（菜の花、ふき、木の芽、たけのこ等）

5月：端午の節句（目玉焼きハンバーグ、こいのぼりゼリー）

6月：夏の献立（トマト、ピーマン、冬瓜、枝豆、とうもろこし等）

7月：七夕（七夕そうめん）、土用の丑（うなぎ）

8月：夏の献立（トマト、オクラ、冬瓜、ゴーヤ等）

9月：開設記念日（赤飯、紅白饅頭）、敬老の日（散らし寿司）、十五夜（里芋、サツマイモ）

郷土料理（沖縄・九州料理）、秋分の日（おはぎ風和菓子）

10月：ハロウィン（カボチャハンバーグ、カボチャババロア）

11月：秋の献立（秋刀魚、さつまいも、南瓜、茄子、きのこ類等）、郷土料理（四国料

理)

- 12月：冬至（南瓜）、クリスマス（デザートバイキング）、大晦日（年越しそば）
1月：正月（おせち料理、七草粥）、鏡開き（ぜんざい）、郷土料理（近畿料理）
2月：節分（イワシ、巻き寿司）、バレンタイン（チョコレート菓子）
3月：ひな祭り（散らし寿司、三色ゼリー）、春分の日（ぼたもち風和菓子）

【ショートステイ（短期入所生活介護）久宝寺愛の郷】

引き続きユニットケアの利点を活かし、個別対応に特化した対応を心がけた。

1. 利用定員 10名

2. 職員体制

職種	常勤	非常勤	合計
生活相談員	1	0	1
ユニットリーダー	1	0	1
介護職員	1	5	6
合計	3	5	8

3. 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	31	32	40	35	33	36	37	35	36	35	38	41
利用延人数	203	243	221	199	196	238	224	234	276	232	240	259
稼働率	68	78	74	64	63	79	72	78	89	75	86	84

4. 取り組み

前年と同様、日々利用者が入れ替わる中で、利用者の方々が在宅生活を継続出来るようご家族様、各事業所との情報共有、報告・連絡・相談を徹底して行った。また、利用中の様子をこまめにご家族及び介護支援専門員に連絡することで、信頼関係の構築ができた。サービスの質（入所中の余暇活動/脳トレ/運動不足予防の散歩等）の向上を行いリピーター率は、ほぼ100%を達成することができた。

【デイサービス（通所介護）久宝寺愛の郷】

職員が定着し、利用者様との信頼関係を築けた。新規利用者の獲得も順調にできた。定員は32名で、3月末は30名を超える日が多くあった。ショートステイと情報共有しながら、在宅で頑張っておられる方のサポートをしていきたい。

1. 職員体制

職種	常勤	非常勤	合計
管理者	1	0	1
生活相談員	1	0	1
看護師	0	2	2
機能訓練指導員	0	1	1

介護職員	3	5	8
送迎担当（運転手）	0	3	5
合計	5	11	18

2. 利用者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	532	583	539	558	582	629	662	664	641	605	608	721
延利用日数	25	27	26	26	27	26	26	26	26	26	24	27
稼働率	66.5	67.5	65.3	66.0	67.4	75.6	79.7	79.8	76.3	72.8	79.4	83.2

3. 取り組み

利用者様に満足してもらえる様なレクリエーション、ボランティアによる踊り・歌等の実施。個別機能の向上に力を入れてきたが、12月に担当者の退職もあり、目標の達成まではいかなかった。次年度の課題としたい。

【八尾市地域包括支援センター 久宝寺愛の郷】

4月より八尾市委託事業として八尾市地域包括支援センターの正式名称とともに、久宝寺中学校区高齢者あんしんセンターの愛称で活動する。久宝寺・美園小学校区の地域活動に参加して、健康相談や啓発活動を実施し、支援センターとしての周知活動を行った。

初年度での周知活動は概ね実施できたが、次年度はさらに周知活動を推進し、地域活動での役割の工夫が課題である。

1. 職員体制

	常勤	非常勤	合計
社会福祉士 （管理者兼務）	1	0	1
主任介護支援専門員	1	0	1
保健師	1	0	1
	3	0	3

2. 利用者数（平成29年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均 /月
直接プラン	12	12	10	11	12	11	11	11	12	12	12	11	137	11
原案委託	0	0	0	0	0	0	153	174	193	197	209	230	1,156	96
合計	12	12	10	11	12	11	164	185	205	209	221	241	1,293	108
相談受付	47	71	115	141	131	187	182	238	296	309	241	349	2,307	192
介護予防教室	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1
家族介護教室	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	6	1
地域行事	5	4	5	5	5	6	7	8	4	5	7	6	67	6

実態把握	3	9	20	25	44	16	4	26	23	22	11	21	224	19
教室新規参加者	10	9	14	20	13	11	10	7	5	8	3	12	122	10

3. 取り組み

4月より一人暮らしの食事会や100円喫茶等の地域行事に参加する。血压測定や健康相談を実施し、介護予防教室等の案内を行い、支援センターの周知活動を行う。地域からの相談事に電話対応や訪問活動を実施し、総合相談窓口としての機能を果たす。

10月からは原案委託業務を実施し、久宝寺中学校区の要支援プランの窓口業務を行う。地域の介護支援専門員との連携を図り、支援内容を共有し、包括的業務の機能を果たす。

平成29年度 事故報告・ヒヤリハット報告について

高畑 洋子

1. 事故件数

■事故（アクシデント）：143件 平成28年度より33件増

■ヒヤリハット（インシデント）件数：82件 平成28年度より36件増

2. 事故分析（アクシデント）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	件数
転倒	2	4	3	3	5	4	3	2	6	3	4	5	44
転落・ずり落ち	4	2	4	5	2	1	2	3	2	1	3	2	31
食事	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0		2
与薬	0	3	4	1	0	1	6	4	4	2	1	3	29
入浴	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
利用者の出来事	3	0	1	1	0	1	3	3	1	2	1	0	16
その他	0	5	0	0	0	0	0	3	2	2	2	4	18

○転倒が多く30.8%、次いで転落・ずり落ち21.7%、与薬20.3%だった。

平成28年度は転落・ずり落ち・転倒事故発生件数にほぼ差がなかったが、29年度は転倒が増えた。所見別ではほぼ利用者に変化は認めなかったが、内出血・表皮剥離が多くみられた。

○発生状況では平成28年度同様、自立動作中が68.2%と危険に対する認識が低く認知症を患っている利用者の行動に多くみられた。介助中の事故は11.4%と平成28年度より減少。発生場所は54.5%と居室が大半、次いでトイレ・リビングともに15.9%であった。

○時間別分析

転倒：6時・20時・21時・14時に居室での発生が多かった。

転落・ずり落ち：ベッドからのずり落ちが多く7時・16時・20時と職員が交代勤務時間や、起床・就寝時間に多くみられた。また、5月・6月・10月・11月・12月・3月と発生件数が多く何らかの原因がないか探り今後の課題とする。

3. 行政報告

骨折事故4件

4.その他

○離設事故対策について

平成29年 1月より防犯カメラを正面玄関・職員通用出入口に設置することで、100%防止は困難も発生の際の行動がわかるようになった。